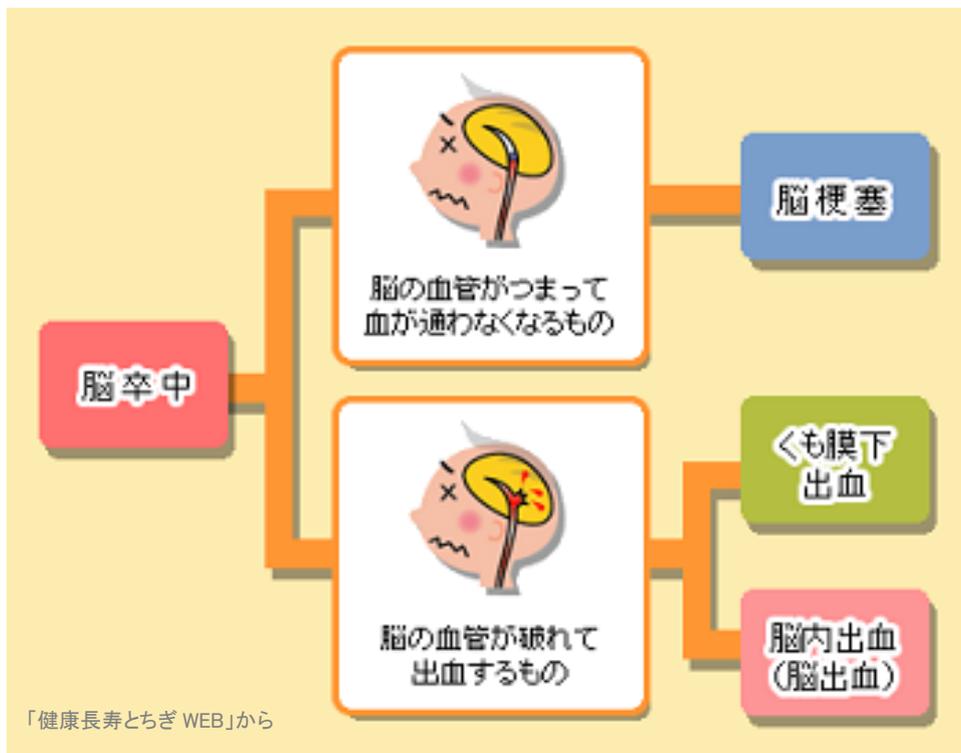


# 週刊 タバコの正体

タバコを吸い続けると血管がダメージを受けます。その結果「動脈硬化」が進行し、血管が詰まったり破れたりする確率が高くなります。そんな症状が脳で発生する病気全体は下図にあるように「脳卒中<sup>のうそちゅう</sup>」と呼ばれ、血管が詰まるタイプは「脳梗塞<sup>のうこうそく</sup>」、血管が破れて出血するタイプは「脳出血」と「くも膜下出血」に分かれます。

脳卒中の症状は、血管の詰まりや破れがあった脳の場所や程度によって様々なパターンがあるそうです。例えば、ろれつが回らなくなる、食事中におはしを落とす、片目が見えなくなる、半身の感覚がおかしい、吐き気をともなう頭痛、けいれん発作……など、突然あらわれる事が多いのです。突然、意識を失って倒れるほどの症状であれば迷うことなく救急車を手配するでしょうが、上の例のような症状をみて「脳卒中」だと気がつく人は少なく、処置や治療が遅れるケースもあると思われます。

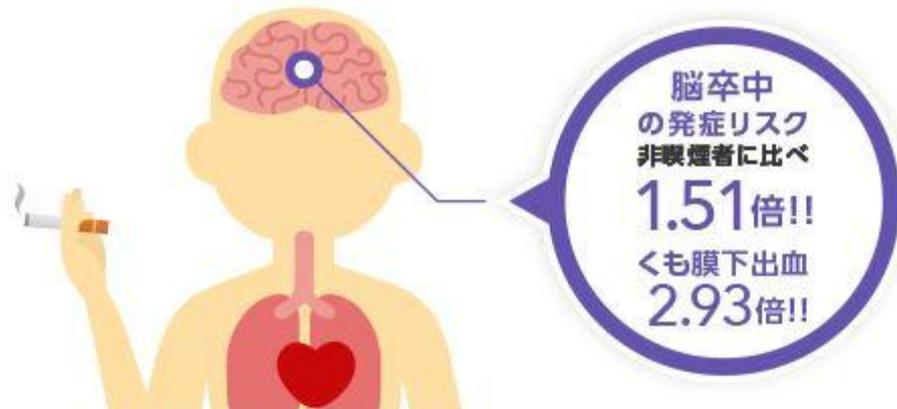


しかし、脳卒中の処置が遅れると、ダメージを受ける脳の細胞や組織が広がり重い後遺症につながる可能性が大きくなります。だから、脳卒中が疑われる場合は一刻も早く病院で診察を受けなければなりません。

脳卒中は緊急性の高い危険な病気です。もし発症したら迅速な対応が必要ですが、そもそも脳卒中にならないようにすることが大切ですよね。

そこで、左図を見てください。タバコを吸わなければ、それだけで発症リスクは少なくなるのですから、わざわざ吸い始める必要はありません。

産業デザイン科  
奥田 恭久



ファイザー「すぐ禁煙.jp」から